

平成27年度 やわた 八幡遺跡 現地説明会資料

平成27年6月13日(土) 10:00～
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

【遺跡の概要】

八戸市大字八幡字館ノ下、字八幡丁に所在し、八戸市の中心部から南西へ約5.5kmに位置します。馬淵川右岸の東から西に向かって傾斜する、標高6～20mの低位段丘上に立地しています。遺跡範囲の現況は大半が明治小学校の敷地が占め、その他の場所は宅地・墓地となっています。

本遺跡ではこれまでの調査によって、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の各時代にわたって数多くの遺構及び遺物がみつかり、長年にわたりこの地に人々が住んでいたことが分かっています。

【これまでに行われた主な調査】

・昭和26年(1951)の調査

慶応義塾大学の江坂輝弥・地元の音喜多富寿らの発掘調査により、縄文時代晩期の土器が多量に出土したほか、貝塚や人骨が確認されています。

・昭和62年(1987)の調査: 1・2地点

本遺跡が縄文時代・弥生時代・古代・中世の各時代にまたがる複合遺跡であることが明らかとなりました。検出された主な遺構には、縄文時代晩期の捨て場や土坑墓、平安時代の竪穴住居跡があります。

・平成2年(1990)の調査: 3地点

弥生時代前期の竪穴住居跡1棟が発見されました。この住居跡の床面から炭化した米278粒、オオムギ・コムギ・アワ・ヒエ・キビ等が出土し、当時の人々が稲作や畑作を行っていた可能性が指摘されています。また、平安時代の竪穴住居跡もみつっています。

・平成18年(2006)の調査: 4地点

櫛引八幡宮の別当を務め、江戸時代に盛岡藩領85か寺の筆頭であった「普門院」の主要な施設であったとみられる大型の掘立柱建物跡を発見し、注目を集めました。また古代の遺構には、平安時代を主体として飛鳥時代・奈良時代の各時期の竪穴住居跡がみつっています。

【今年度の調査要項】

遺跡の住所: 八戸市大字八幡字下陣屋40-1

調査の目的: 八戸市立館公民館建築

調査期間: 平成27年4月13日から6月30日(予定)

調査面積: 930㎡

調査主体: 八戸市教育委員会 社会教育課

調査担当: 八戸市教育委員会 是川縄文館

【みつかった遺構と遺物】

今年度の調査では、縄文時代の土坑墓1基、古代の竪穴住居跡12棟、中世の竪穴建物1棟・溝跡1条その他時期不明の土坑27基、ピットなど多数の遺構を検出しました。

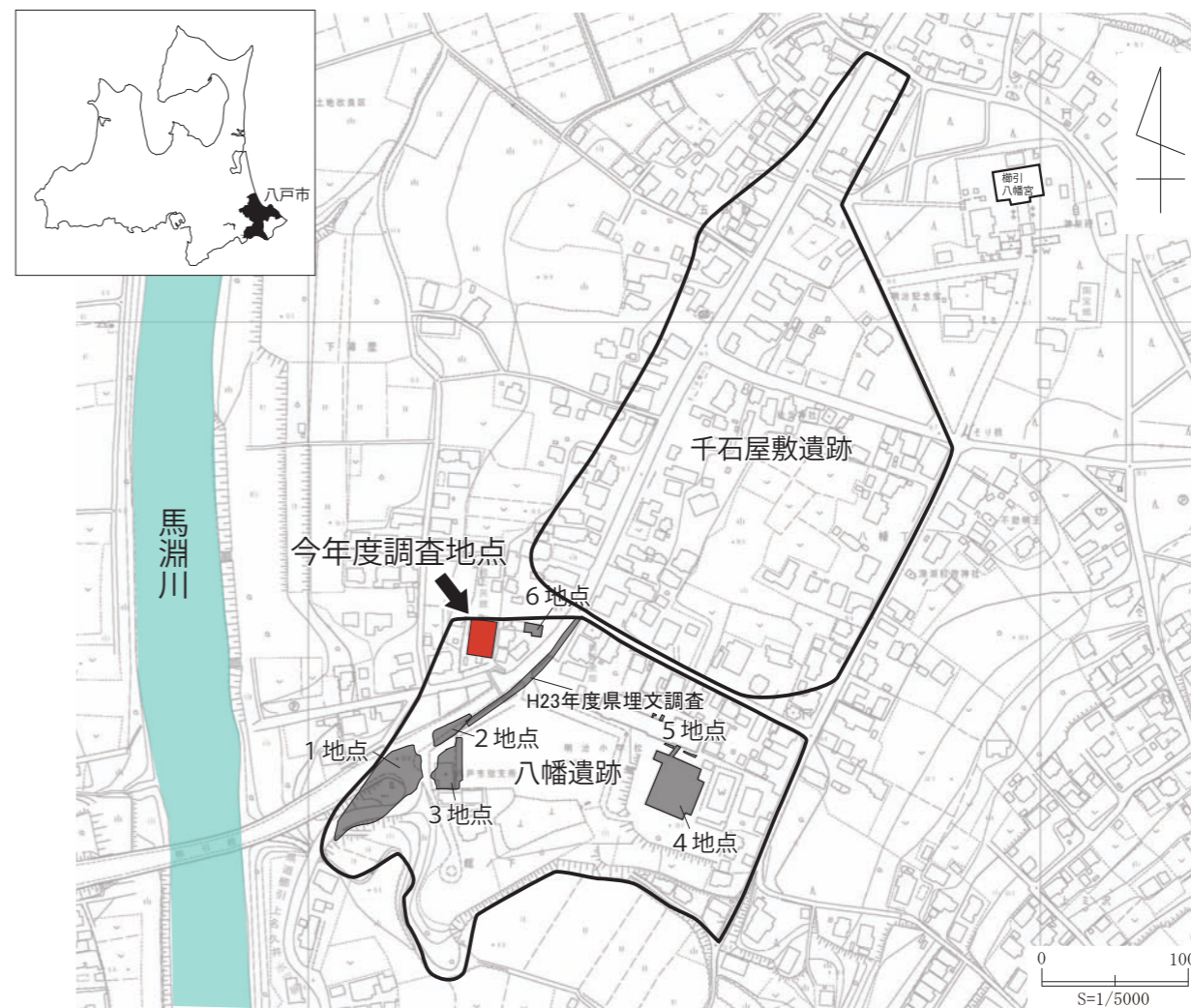
また、縄文土器・土製品(土偶)・石器、土師器・須恵器・土製支脚・鉄製品(鉄鏃・刀子・鉄製紡錘車など)・銭貨(紹聖元寶・元豊通寶)などが出土しています。

【調査のまとめ】

今回の調査により、本遺跡の平安時代のムラがさらに北側と西側に広がることがわかりました。また、これまでの調査と同様に、狭い範囲に竪穴住居がくり返し営まれる様子を確認することができました。平安時代のムラがつかわれなくなった後、中世の竪穴建物や溝跡がつかれます。溝跡の東側には竪穴建物がありますが、西側には中世の遺構・遺物がみつかりません。このため、溝跡は東側の内と西側の外を区切る境界であったと考えられます。



遺跡でみる八戸の歴史
早わかり年表(一部抜粋)



八幡遺跡の位置



3号溝跡 (南から撮影)



3号溝跡の動物骨検出状況 (北から撮影)
溝跡に沿うように、牛の骨が並んで出土。
宋の時代に作られたお金も出土しました。

白○: 牛の骨
赤○: 銭貨 (紹聖元寶)



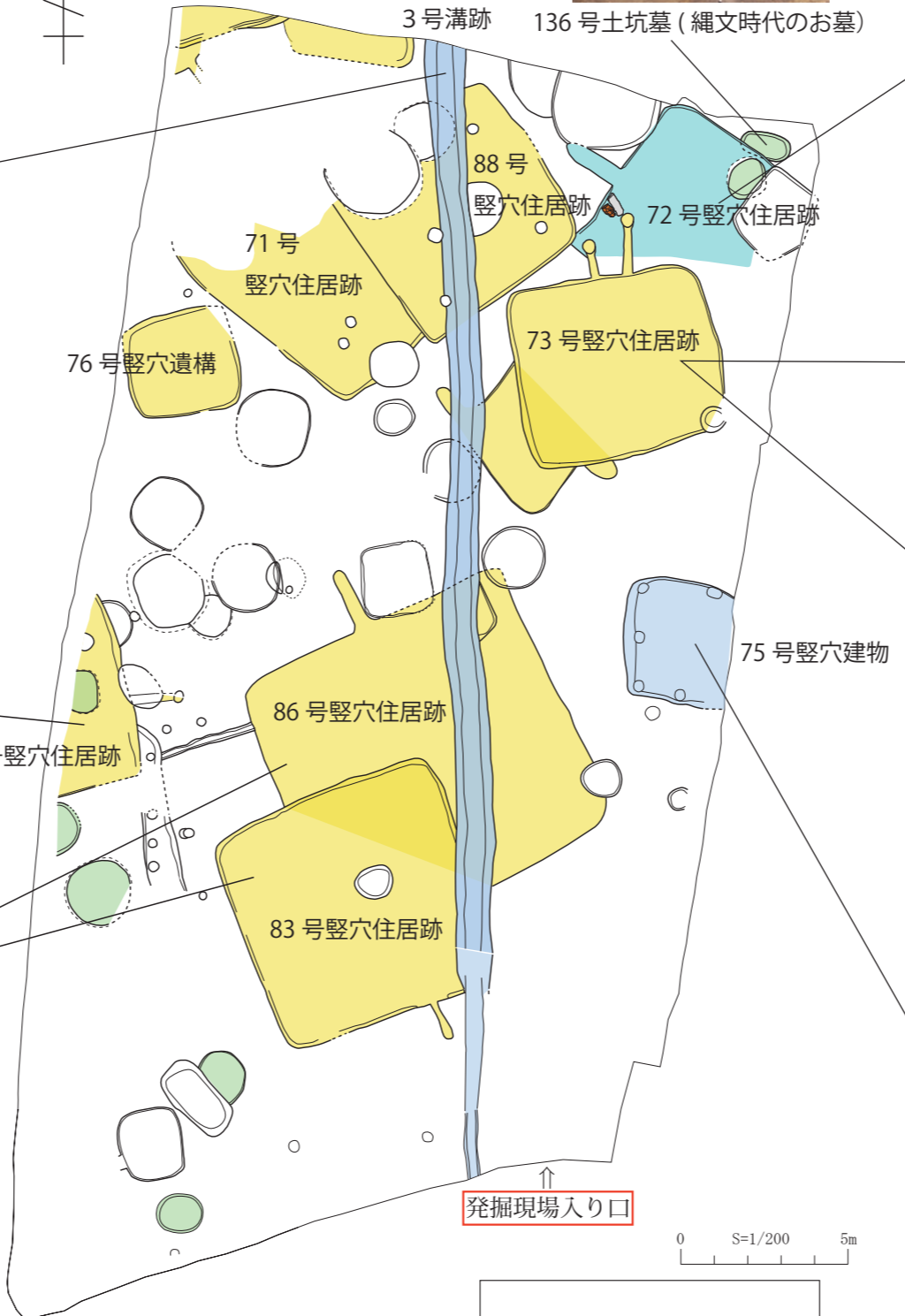
136号土坑墓 (縄文時代のお墓)



72号竪穴住居跡 (東から撮影)
炭になった木材や焼けた土が出土 (焼失家屋)。
火災に遭った住居か?



土師器の甕が
ほぼ完形で出土



73号竪穴住居跡
2つの煙出口 (左が古く、右が新しい)



80号竪穴住居跡カマド (南から撮影)



カマドの上にたくさんの灰が
かぶさっていました。



73号竪穴住居跡 (南から撮影)



83号竪穴住居跡 (下) と 86号竪穴住居跡 (上) (南から撮影)
白く見えるのは今から 1,100 年前に十和田火山の噴火により降った火山灰



75号竪穴建物 (南から撮影) 赤い○は柱を建てた穴

- 縄文時代の遺構
- 奈良時代の遺構
- 平安時代の遺構
- 中世・近世の遺構